



TITLE:

1.概要(Ⅱ 共同利用研究)

AUTHOR(S):

CITATION:

1.概要(Ⅱ 共同利用研究). 霊長類研究所年報 1992, 22: 51-52

ISSUE DATE:

1992-10-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/164392>

RIGHT:

Ⅱ 共同利用研究

1. 概 要

昭和57年以来、研究課題として「計画研究」並びに「自由研究」を併置し、又、昭和62年度から「資料提供」を新設し、これらに係る共同利用研究が実施されてきた。「計画研究」とは、本研究所内推進者の企画に基づいて共同利用研究者を公募するもので、個々の「計画研究」は3～5年の期間内に終了し、まとめた成果を公表する。「自由研究」とは、「計画研究」に該当しないプロジェクトで、応募者の自由な着想と計画に基づき所内対応者の協力を得て、継続期間3年を目途に研究が実施されている。「資料提供」とは、資料（体液、臓器、筋肉、毛皮、歯牙・骨格、排泄物等）のみを提供する共同研究として実施されている。平成3年度の計画課題、応募並びに採択状況、研究会等の概略は以下のとおりである。

(1) 共同利用研究課題

A. 計画研究（カッコ内は課題推進者。*は代表者）

1. ニホンザルの分布と個体数と生息環境

〔実施予定年度 平成元年度～3年度〕

（杉山幸丸*、渡邊邦夫、山極壽一、後藤俊二）

聞き込み・アンケートを含む中広域実地調査と全国規模の分布・生息個体数推定方法の確立を目指す。さらに生息実態の定期診断も可能にし、その時間的変化を環境との関係も含めてニホンザルの生き残る道を探る。

2. 屋久島のニホンザル地域個体群の構造と保存に関する研究

〔実施予定年度 昭和63年度～平成4年度〕

（東 滋*、渡邊邦夫、加納隆至、瀬戸口烈司）

暖温帯域の代表的な生息地であり、島全体では亜寒帯にまでわたる広い巾と急な環境勾配のなかに分布する屋久島で、社会生態学的な研究の継続的展開をはかる。また、亜種ヤクザルの保護（農業被害防除を含む）のための基礎研究とあわせて生物学的資料の収集・保存をはかる。

3. 父子判定にもとづく霊長類の行動解析

〔実施予定年度 平成2年度から4年度〕

（大沢秀行、竹中 修、杉山幸丸、川本 芳、野崎真澄）

生化学的遺伝学的父子判定にもとづく研究および関連の研究を行う。父系図の完成している霊長類の放飼群の行動観察、これから父子判定を行おうとする野生群や餌付群の野外研究を含む。共同研究者が実際に父子判定を行おうとすることも可能である。

4. 霊長類における社会的相互作用の集団間変異

〔実施予定年度 平成元年度～3年度〕

（加納隆至*、小嶋祥三、森 明雄）

本研究所放飼場等でマカクを含むさまざまな霊長類の社会的相互作用の定量的な観察を行い、集団間での比較を通じてその種内変異と多様性およびそれを成立させている社会的変数を明らかにする。

5. 霊長類の認知機能の分析

〔実施予定年度 平成元年度～3年度〕

（松沢哲郎*、藤田和生、三上章允）

錯覚やゲシュタルト的知覚から、注意・模倣・表象機能・概念形成・異種感覚統合に至るまでの認知機能の諸階層を実験的に分析し、ヒトの資料と比較しつつ、霊長類の認知機能の特性について考察する。

6. 利き手と脳の進化

〔実施予定年度 平成元年度～3年度〕

（久保田競*、松沢哲郎）

ヒトで顕著にみられる利き手と大脳半球の非対称性が、原猿、広鼻猿、狭鼻猿、類人猿でどのようにみられるか。行動観察や形態学的、生理学的研究を行う。

これらの起源と進化を跡づける。

7. 霊長類の消化器系の形態と機能

〔実施予定年度 平成元年度～3年度〕

（諏訪 元*、毛利俊雄）

霊長類の重要な特徴は運動様式と食性に関係が深い。本課題研究では咀嚼器官も含めて消化器全体の解剖学的、生理学的研究を行い、生態学的成果とも関連させながら、進化・適応についてアプローチしたい。

8. 霊長類硬組織の形態学的研究

〔実施予定年度 平成3年度～5年度〕

(野上裕生・木村 賛, 瀬戸口烈司,

諏訪 元, 毛利俊雄)

現生霊長類と化石霊長類の統一的な理解を目指して、霊長類の骨格・歯牙の比較形態学的研究を行う。

9. マカカ属サルの種内、種間変異に関する研究

〔実施予定年度 昭和63年度～平成3年度〕

(庄武孝義*, 岩本光雄, 相見 満)

マカカ属サルの種分化を考察するとき、まずそれぞれの種内変異を検索し、次に種間変異の定量が必要となる。主として長年の海外学術調査等で収集され蓄積されている遺伝学的、あるいは形態学的資料を用いての研究に主眼を置いて計画研究課題として続行する。

10. ニホンザルの花粉アレルギーに関する研究

〔実施予定年度 平成2年度～4年度〕

(中村 伸*, 後藤俊二)

ニホンザルの花粉アレルギー(花粉症)を中心に、霊長類のアレルギー・免疫異常について生化学、免疫学、薬理学、実験動物学、遺伝学および疫学などの見地から、その発症機序ならびに要因の解明を目指す。また、霊長類を用いたアレルギー疾患モデルの作出とその活用も進める。

11. 生体分子の構造分析による霊長類の系統

〔実施予定年度 平成3年度から5年度〕

(竹中 修*, 庄武孝義, 川本 芳)

核やミトコンドリアのDNAあるいは微量タンパク質の構造を生化学的、遺伝学的手法により調べ、霊長類の系統を明らかにする。また新しい分析方法の開発もあわせて目的とする。

B. 自由研究(計画研究に含まれない研究課題)

C. 資料提供

(2) 応募および採択状況

平成3年度のこれら研究課題について80件(134名)の応募があり、運営委員会共同利用研究専門部会(浅野俊夫, 和 秀雄, 渡辺 毅, 石田英実, 西田利貞, 竹中 修)並びに共同利用研究実行委員会(野崎真澄, 景山 節, 渡辺邦夫, 岩本光雄, 山極壽一, 松村道一)との合同会議において採択原案を作成した。この原案は協議委員会(平成3年2月13日)の審議・決定を経て運営委員会(平成3年2月27日)で了承された。

その結果78件(129名)が採択され、各課題についての応募・採択状況は下記のとおりである。

課題	応募	採 択(*)
計画 1	6件(21名)	6件(21名)
2	1件(1名)	1件(1名)
3	3件(3名)	3件(3名)
4	3件(4名)	3件(4名)
5	3件(5名)	3件(5名)
6	4件(7名)	4件(7名)
7	3件(6名)	3件(6名)
8	3件(3名)	3件(3名)
9	5件(10名)	5件(10名)
10	3件(3名)	3件(3名)
自 由	37件(55名)	34件(49名)
資 料	9件(16名)	10件(17名)

(3) 研 究 会

平成3年度は、「研究会」と小規模の「ミニ研究会」が以下のとおり採択・実施された。

A. 研究会

1. マカカ属の種分化と系統関係
2. ニホンザルの現況
3. 霊長類の生殖現象とその機序
4. ヒトの音声言語の生物学的基礎
5. 運動の機構と制御
6. 第21回ホミニゼーション研究会「手」

B. ミニ研究会

1. 霊長類の生理活性物質